

6/20 早稿

沖縄一怒り限界超えた

県民大会

はじめ、全国各地で同様に事件に抗議する集会が開かれた。
沖縄の県民大会は共産、社民両党などでつくる「オール沖縄会議」が主催した。

女性殺害、6万5000人抗議

沖縄で元米海兵隊員の軍属が逮捕された女性暴行殺害事件に抗議し、被害女性を追悼する「県民大会」が

十九日、那覇市の奥武山公園で開かれ、約六万五千人（主催者発表）が参加した。繰り返される事件に

「県民の怒りは限界を超えた」として、沖縄に駐留する米軍の大半を占める海兵隊の撤退や、日米地位協定

の抜本改定を求める決議を採択。「基地反対」の意思を改めて示した。＝関連②

④⑤⑥面
大会に出席した翁長雄志

事件に触れ「二度と」のようないい事件を繰り返さないと誓いながら、政治の仕組みを変えられなかつたことは痛恨の極み」と述べた。

政府に対し、米軍普天間飛行場の県外移設を強く求め、米兵の特権意識を助長し事件の温床ともされる日米地位協定の見直しに向け「不退転の決意」を表明した。

大会の冒頭、参加者全員で黙とうし、事件で亡くなつた女性（二）を悼んだ。女

性の父親は「なぜ娘は殺されなければならないなかつたのか。次の被害者を出さないためにも全基地撤去を強く願っている。県民が一つになれば可能だ」などとするメッセージを寄せ、会場で読み上げられた。

県民らは「怒りは限界を超えた」「海兵隊は撤退を」と書かれた紙を一斉に掲げ、基地の負担軽減が進まない現状に反発を示した。

大会決議では「米軍基地あるが故の事件であり、断じて許されるものではない」とし「県民の人権と命を守るために米軍基地の大規模な整理・縮小、中でも海兵隊の撤退は急務だ」と強調した。

この日は東京の国会前を

「本土国民も加害者」

若者代表涙の訴え

沖縄県民大会



①沖縄で米軍属が逮捕された女性暴行殺害事件に抗議する「県民大会」で、メッセージを掲げる参加者たち ②涙を流して訴える玉城愛さん=いずれも19日午後、那覇市で

沖縄で十九日を開かれた「県民大会」では、被害者と同じく市に住む名桜大四年の玉城愛さん（二）が、若い世代を代表してスピーチした。沖縄が強いられ続ける重い米軍基地負担と、同じく市に住む名桜因と捉える県民の怒りは高まっている。玉城さんは、

事件後に政府が打ち出した再発防止策に触れ、「パートナーを増やして護身術を学べば、私たちの命は安全になるのか。確かにしないでください。再発防止や綱紀粛正など」という、使い古された幼稚で安易な提案は意味を持たない」と批判した。

母方の祖父は、軍雇用員として米軍基地で働いていた。友人には基地に勤めていた米軍人の子どももおり、帰国した今も交流が続いている。基地は「日常の風景」（玉城さん）にすぎなかつた。転機は大学入学後に訪れた。普天間飛行場への新型輸送機オスプレイ配備に反対する沖縄県民に

玉城さんは、胸に手いりボンを着けた喪服で登壇。犠牲になつた女性に「あなたのことを思い、多くの県民が涙し、怒り、悲しみ、言葉にならない重くのしかかるもの抱いていること」を絶対に忘れないでください」と語り掛けた。

日本を解放してください。私たちには奴隸ではない。被害者とウチナーンチュ（沖縄の人）に真剣に向き合い、謝ってください」と語彙を強めた。

玉城さんは、米兵による少女暴行事件が起きた一九五年前年に生まれた。九年の前年に生まれた。

迫っただキュメンタリー映画を見て、声を上げて行動する人たちの姿に心を揺さぶられた。

一〇一三年末、通つている大学に近い名護市辺野古沿岸部を埋め立て、普天間飛行場の代替施設を建設する政府の計画を前知事が承認した。「私たちの世代で基地は終わらせないといけない」。学生団体「SEA LIDS RYUKYU（シールズ琉球）」に加わり、抗議活動を続けてきた。

約八分間のスピーチは、途中から涙をこぼされながら「同じ世代の女性の命が奪われる。信頼している社会に裏切られる。もしやしたら、私だったかもしれない」とハンカチで目元をぬぐいながら言葉を継いだ。「もう絶対に繰り返さない」と前を見据えた。